

三重県伊賀市

中心市街地活性化基本計画概要

【3期計画:令和7年4月～令和12年3月 ※2期計画は市任意計画】

【目指す中心市街地の都市像】

城下町伊賀上野の文化・風土を市民で守り、
次世代につなげ、新たなにぎわいを創出する。

【自治体の概要】 人口:86,182人(R5.9末・住民基本台帳)、面積:558.23km²

古来より京都・奈良と伊勢を結ぶ交通の要衝として栄え、地理的・歴史的背景から京大和文化の影響を受けつつも、独自の歴史文化の薫る地域である。中心市街地は「伊賀上野城下町の文化的景観」として日本の20世紀遺産20選に選ばれるなど、歴史と文化が蓄積された、伝統と風格のあるまちなみが特徴の城下町となっている。

【中心市街地の課題等】

1)まちなかの住環境の改善

人口減少が続いており、買い物や移動等の暮らしの利便性の低下がみられることから、多世代にとって快適な暮らしができるまちなかの環境づくりを進める必要がある。
※中心市街地社会増減数 H30:8人増 → H30～R5累計:61人増

2)まちなか周遊への誘導と空き家・空き店舗の活用

空き店舗が多く、観光客が立ち寄る拠点が少ないほか、歴史文化資源の繋がりが薄く、十分な情報発信もできていない。このため、まちの資源をつなげる工夫を行うとともに、情報を広く発信し、立ち寄りたくなるまちなかの魅力づくりを進める必要がある。
※歩行者・自転車通行量 R1:3,584人/日 → R5: 3,752人/日
※空店舗等活用件数 R1:3件 → R1～R5累計: 25件

3)歴史・文化資源を活かした持続的なまちづくり

少子高齢化の進行により、伝統文化の継承が困難になっている。また、中心市街地活性化を自分事として捉え、活動できる人材が不足している。今後は、市民全員がまちの良さを実感し、まちなかから周辺地域へ活性化の効果が波及することで、伊賀市の持続可能性を高める基盤となる城下町＝中心市街地を目指していく。

【計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値	推計値	目標値
仕事と暮らしが調和した 多世代が暮らしやすい 生活環境の整った城下町	中心市街地における 居住人口の社会増減数	-52人 (H25～R5累計)	-30人 (R6～R11累計)	+50人 (R7～R11累計)
	【参考指標】中心市街地の 45歳未満居住人口	2,686人 (R5)	2,646人 (R11)	2,730人 (R11)
地域資源がつながる 歩いて楽しい 立ち寄りたくなる城下町	中心市街地の 歩行者等通行量(15地点)	5,795人/日 (R5)	7,143人/日 (R11)	7,800人/日 (R11)
	空き店舗等を活用した 新規出店数	25件 (R1～R5累計)	25件 (R7～R11累計)	35件 (R7～R11累計)
歴史文化が育んだ 「伊賀らしさ」を 次世代に継承し 持続可能な魅力あふれる 城下町	伊賀の歴史的資源等を 活かした施設の利用者数	364,395人/年 (R1)	215,777人/年 (R11)	693,000人/年 (R11)

【中心市街地活性化の方針】

基本方針① 多世代が交流する、便利で住みよいまちづくり

まちなかの空き家・空き店舗等の既存ストックの活用により、多様な人々が働く場や交流の場をつくる。また、市全体の都市機能を支えるとともに、まちなか居住の拠点として、生活利便性が高く、子どもが遊び・学べる環境が充実した、多世代が暮らしやすく、住んでみたいと思える環境づくりを進める。

⇒ 目標：仕事と暮らしが調和した 多世代が暮らしやすい 生活環境の整った城下町

【中心市街地における居住人口の社会増減数、45歳未満居住人口】 全33事業

基本方針② 回遊したくなるまちなかの魅力づくり

既存の歴史的資源や空き家・空き店舗の活用により立ち寄り拠点を作るほか、物産品、宿泊、体験メニュー等既存の資源を提供することで魅力を高める。また、それらをつなげる工夫により、歩いて楽しい通りづくりを進め、まちなか周遊への誘導を図っていく。

⇒ 目標：地域資源がつながる 歩いて楽しい 立ち寄りたくなる城下町

【中心市街地の歩行者等通行量、空き店舗等を活用した新規出店数】 全47事業

基本方針③ 伊賀の強みを誇りとして継承するまちづくり

中心市街地から伊賀市全体へと活性化を波及させるべく、まちの良さを市民自身が認識し受け継いでいくとともに、持続的・安定的・創造的なまちのにぎわいづくりを官民連携の新たな担い手により進める。

⇒ 目標：歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し 持続可能な魅力あふれる城下町

【伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数】 全31事業

【前期計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値	目標値
居住者を減らさず・増やす・住める・ 住みよいまちづくり	中心市街地社会増減数	+8人 (H30)	+62人 (H30～R6累計)
	空店舗等活用件数	3件 (R1)	32件 (R1～R6累計)
伊賀の歴史文化と忍者をテーマとした 観光拠点、観光ルートづくり	観光・交流施設の利用者数	337,110人/年 (H30)	350,000人/年 (R6)
	歩行者・自転車通行量(6地点)	3,584人/日 (R1)	4,700人/日 (R6)
市民・住民・来街者参加のまちづくり	イベント参加者数	103,904人 (H30)	130,000人 (R6)

伊賀市中心市街地活性化基本計画の事業概要

地域資源がつながる 歩いて楽しい 立ち寄りたくなる城下町

上野公園から城下町エリアを結ぶ導線を「にぎわい忍者回廊」と位置づけ、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(PFI法)」に基づき、公民が一体で地域資源を面的にとらえたにぎわいづくりを実施する。

②忍者体験施設運営活用事業

市指定有形文化財「成瀬平馬家長屋門」敷地に整備した忍者体験施設を活用し、忍者体験や伊賀の歴史と忍者の世界を体感できるアトラクションの他、伊賀の食材を使ったグルメや土産物ブースを設け、誘客促進を図りながら持続可能な観光まちづくりの取組を実施していく。

③交流型図書館運営活用事業

にぎわいづくりの拠点として市指定有形文化財「旧上野市庁舎」をリノベーションして整備した官民複合施設を構成する交流型図書館において、「学び、創造、憩いの広場」としての機能を発揮するとともに、読書イベントやナイトライブラリなどの事業を実施し、にぎわいづくりにつなげる。

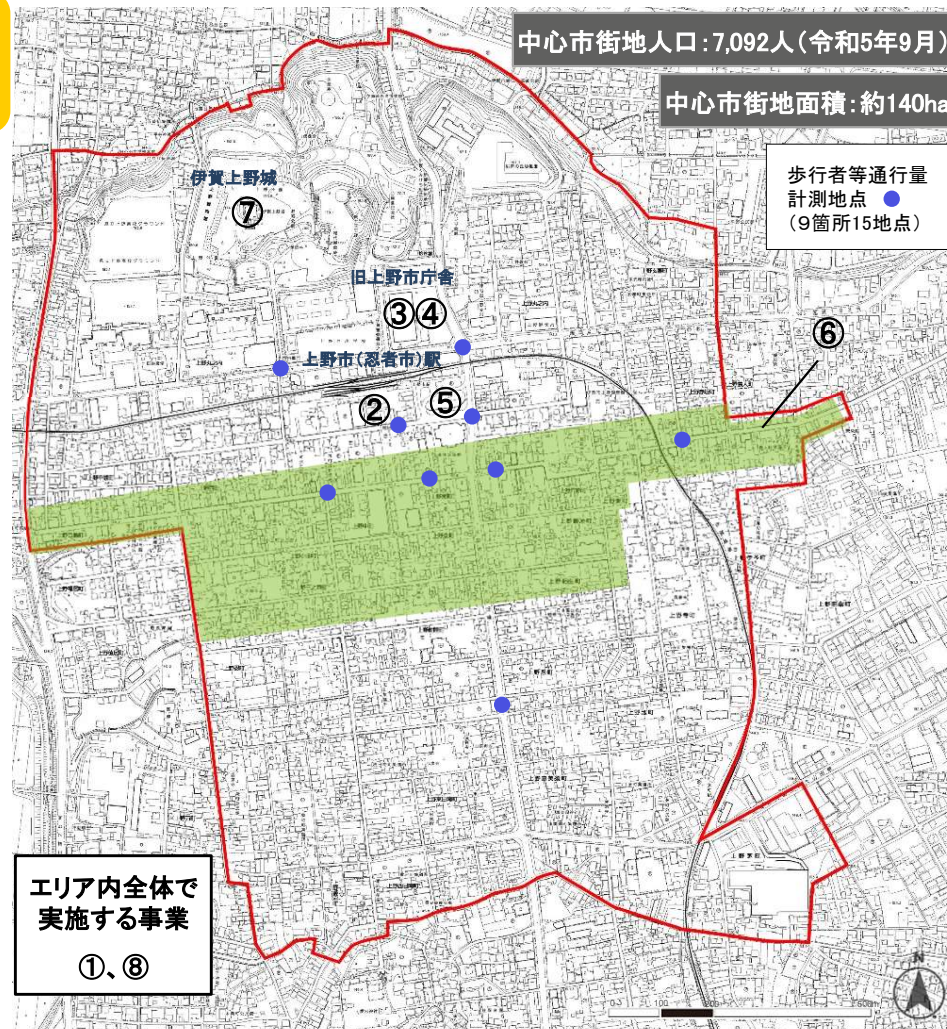
④旧上野市庁舎運営活用事業

にぎわいづくりの拠点として市指定有形文化財「旧上野市庁舎」をリノベーションして整備した、観光案内所、カフェ、宿泊施設などから構成される官民複合施設の運営を行うとともに、「にぎわい忍者回廊」プロジェクト全体のマネジメントを行う。



⑤新まちなか市「伊賀マルシェ」開催事業

伊賀マルシェを春夏秋冬のイベントとして年4回開催する。出店者とお客様との交流の場となり、個店の魅力を知ってもらうとともに、新たに事業を考えている方のチャレンジの場となり、伊賀の食文化の発信や魅力度アップを図る。



エリア内全体で
実施する事業
①、⑧

仕事と暮らしが調和した 多世代が暮らしやすい 生活環境の整った城下町

①伊賀市起業・経営革新促進事業

市内における新たな事業主体の創出及び市内事業者の経営革新を促進し、地域経済の維持・発展を図るため、空き家・空き店舗の改修費・付帯設備費及び広告宣伝や商品開発などに要する経費の一部の補助を行う。



歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を 次世代に継承し 持続可能な魅力あふれる城下町

⑥ユネスコ無形文化遺産

上野天神祭のダンジリ行事開催事業

平成28年に「山・鉦・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録された、国指定重要無形民俗文化財「上野天神祭のダンジリ行事」を開催する。また、行事で使用されるだんじりやだんじりの懸装品及び鬼行列で使用される面や衣装などの用具修理を実施するほか、行事の保存継承、情報発信の支援を行う。



⑦ライトアップイベント「お城のまわり」開催事業

上野公園内とその周辺にある歴史的建物等をライトアップし、伊賀のすばらしさを再発見してもらうためのイベントを開催する。



⑧伊賀上野灯りの城下町開催事業

伊賀上野灯りの城下町を開催する。また、バルチケットを使用して城下町の飲食店で食べ飲み歩きが楽しめる、伊賀上野城下町バルを同時開催する。